

# 民主島根

2022年  
**9.25**  
第1412号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 中国5県各地でいっせい宣伝 憲法違反の国葬中止を

### 大平元衆議院議員が後藤出雲市議員、井原出雲市議員と宣伝



宣伝する大平元衆議院議員（左から2人目）ら（出雲市）



「国葬反対」をアピールする市民ら（JR松江駅前）

中国5県の日本共産党は16日、地方議員や党支部員らが各地でいっせいの宣伝に取り組みました。島根県では、大平喜信元衆議院議員が出雲市内4カ所で後藤由美市議員、井原優元市議員らと街頭演説しました。暑い中、どの場所でも支援者が駆け付け、計40人が聴き入りしました。

大平氏は、安倍晋三元首相の「国葬」で二つの大きな問題を指摘。第一に、憲法14条の法の下の平等に反するとして「なぜ、安倍氏だけ特別扱いするのか理由がつかない」と述べ、「悪政が長く続くことは功績ではなく、国民にとつての不幸だ」と告発しました。第二に、憲法19条の思想・良心の自由を侵す

として、岸田首相は「国民全体として弔意をあらわす」と言うが、国とは国民のことであり、国民に弔意を強制することになると強調。「憲法違反の『国葬』は今からでも中止を」と訴えました。また、旧統一協会と自民党との癒着にふれ、「旧統一協会の広告塔となり、被害拡大を許した自民党の責任は重い」と厳しく批判しました。その上で、安倍元首相と衆院島根1区選出の細田博之衆議院議員（衆議院議長）についても徹底調査を行うべきだと訴えました。県内では、松江市や安来市などで宣伝に取り組みました。

### 弔意強制は憲法違反 「国葬中止」を総がかり行動が集会

安倍晋三元首相の「国葬」中止を求める集会（主催）が8日夕、JR松江駅前で開催されました。約120人が「国葬反対私の税金使わないで！」などと書かれたプラカードを掲げ、「中止を強く求める」集会アピールを採択しました。主催者あいさつした安

## 県政・市政報告会

10月9日(日) 13:30~ 松江テルサ大会議室



県議会議員  
**尾村としなり**  
舟木健治、橋ふみ両松江市議もお話します。

10月15日(土) 14:00~ ビッグハート出雲 黒のスタジオ

県議会議員  
**大国 陽介**

後藤由美、吉井安見の両出雲市議も報告します。



がリレートーク。神門喜久子さん（新日本婦人の会松江支部）は、各世論調査でも「国葬反対」は過半数に達し、岸田首相は国民に納得のいく説明をしていないと指摘。「勝手に閣議決定し、莫大な費用をかけることに国民の怒りが広がっている」

### 島根原発2号機再稼働ノー

#### 金曜行動が県庁前でアピール

松江市の県庁前で16日夕、島根原発再稼働反対の金曜日行動が行われました。「原発事故が起きたら避難はムリ」「原発ゼロで新しいエネルギーで暮らそう」などと書かれたプラスターを掲げ、ドライバーや仕事帰りの人にアピールしました。（写真）金曜日行動は300回を超え、岩本晃司代表は「コロナ禍に自然災害が重なった際、原発事故が起きたら避難できるのか、住民は強い不安を抱えています。住民の声を自治体はしっかり応え、説明責任を果たすべきです」と語りました。

### 鼓動

BSの映画「男はつらいよ」シリーズが完結した。欠かさず視聴したが、4K修正版の映像は鮮明で、今更に見ることでない昭和の懐かしい田舎の風景が脳裏に焼き、毎回、寅の人間的魅力に惹きつけられた。とくに、マドンナへの寅の一途な思いに、古希を過ぎて枯れつつあるわが心に潤いが戻った▼場末の歌手のリリー（浅丘ルリ子）が、遠い沖縄で入院。寅はすぐに駆けつけ甲斐甲斐しく看病し、退院後も沖縄に残りその療養につきあう。ところがある日、リリーが寅と所帯を持っていいとほめかすと、寅は「俺たちそんな柄か」と茶化してしまう。リリーは翌朝、沖縄を去った▼「おじさんは、相手が振り向いたとたん逃げるんだ。そこが歯がゆいとこだけど、おじさんは結婚した後に相手が後悔することを知っているんだ」と甥の満男は言う。それは寅の「弱さ」ではない。相手を思いやるやさしさであり素直な気持ちなのだ。そこが寅の魅力でもある▼中には、マドンナが振り向かず寅の片思いに終わるケースもある。第一作では幼馴染の帝釈天の娘に恋して、悩みに相談に乗ったり舟遊びに誘ったり、色々世話を焼くが、最後に彼女の恋人が現れあえなく失恋。傷ついた寅は、またテキ屋の旅に出る▼かつて、寅と同じようななじめな思いをしたことがある。相手を心配して色々と言ったつもりが、一方的な思い込みが過ぎてかえって怒らせてしまった。歳を取るとロクなことがない。それでも、寅のように純心に相手を思いやり、わがことのように心配してお節介に奔走する生き様に憧れている。（吉）